



羅針盤

石黒 直子
Naoko Ishiguro

東京女子医科大学皮膚科 准教授



学生時代からフレッシューズ時代，専門医後続く大きな流れを感じて！

新しい臨床研修制度が開始され早 11 年が経過し，今年度 12 期生を迎える。フレッシューズは，実は医師 3 年目である。その現在のフレッシューズを含む後期臨床研修医のなかに，昔と比べると，自分の持てる能力を十二分に発揮できない，いや発揮しようとしないうまま過ごしている人が意外と多くいることを，ずっと不思議に思ってきた。学生時代の学力に昔も今も大きな隔たりを感じないうえ，医師としての基礎的研修を終えて入局し，むしろ以前よりパワーアップしていると思えるにもかかわらず，である。物事を理解する力，ポイントを押さえる力，単純明快にまとめる力，それらをもとに解釈し，解決する技術，いずれにおいても力を蓄えていると思える人たちがどうして？

また，昔のフレッシューズは図書館ですべての資料を取得し，サマリー，学会原稿，論文の作成を手書きで行うなど，多くの労力を費やしてきた。一方今は，PC，デジカメ，スキャナーなどさまざまな機器を駆使すれば，時間を浪費する必要もなくなってきた。それでは省かれた時間はいったい何に費やされているのか？

これらの疑問について考えていると最近とくに強く思うのは，しごくあたりまえのことだが，“われわれは専門職に就いている”ということである。現在，そのあたりまえのことについての認識が欠けているのではないかと危惧している。われわれのやっていることは事務職ではない。専門職であるがゆえに，毎日の業務をただこなすだけでは得られない，自らが吸収すべき知識や技術がある。普通の事務作業であれば，毎日の業務を 2，3 年間くり返し行ううちにほぼ習得できるのだろうが，われわれの仕事は数年間では本来むずかしく，それで終了というものでもない。仮に，フレッシューズ時代を含む後期臨床研修の限られた期

間で習得してしまおうとすると，1 日のうち研修にかかる時間は膨大となるはずであるが，実際には不可能に近い。

ならば，それを解決する一つの方法としては，学生時代から初期臨床研修医，後期臨床研修医（フレッシューズ時代を含む），専門医後続く大きな流れを感じつつ，自分のキャリアデザインを折につけ修正しながらも，長く淡々とキャリアを積むということがあげられる。

ワーク・ライフ・バランスがいわれるようになって久しい。仕事で生きがいや喜びを得て，同時に私生活（家事，育児，介護，社会との関わりも含め）を充実することで，より豊かな人生を送れるようにすること。医師としての基礎固めを終え，次の段階の皮膚科医としての基礎固めを行うフレッシューズ時代は，将来充実したワークを実現するための準備期間の中心となり，大きな鍵を握る時期であることはいうまでもない。

また，その後の後期臨床研修，専門医後にもつなげ，淡々とキャリアを積み重ねていくなれば，いずれ皮膚科医としての基礎は強固なものとなり，熟成した皮膚科医を楽しんで続けることが可能になると思う。たとえ，フレッシューズ時代にライフイベント（育児など）で時間が割かれることになっても，その時，もしくはその後に通らねばならない大切な期間である。ここを通らずして前に進めるような近道はないのである。

本特集号は，このかけがえのないフレッシューズ時代からその後にかけて，皮膚科医の基礎を構築するための指針となり，将来，皆さんが皮膚科医という専門職としてのワークを充実させ，それによりさらにライフが輝く素敵な人生を歩めるよう願って構成されたものである。